



TT通信



～TEAM TAKANISHI 心一つに 未来をつくる～

第16号

令和2年9月25日

研究主任 小坂

校内研究授業実施 「わかる授業」「できる授業」の創造

～探究とめあて・振り返りで学力の充実と定着を図る授業づくりを通して～

9月2日に数学科 脇川先生と音楽科 矢野先生、9月8日に理科 佐藤先生による校内研究授業を実施しました。第3回までの校内授業研での学びをいかながら実践していただきました。

音楽科 矢野教諭

「旋律が追いかけるように重なり合っていくおもしろさを味わおう」

バロック時代に作曲されたバッハの代表的な作品である「フーガト短調」を題材に、声部ごとに主題を聴きとり、作曲家が工夫したことや、フーガの魅力について考える授業を実践されました。”主題”を聴きとらせるための意図的な工夫が見られました。



山口指導主事より指導・助言

- ・グループからでた意見を板書に残す→学びの軌跡の可視化
- ・生徒と教師の1対1のやりとりでまとめにならないようにする。
- ・「こういう意見ができるといいなと思っていた」→提示して声かけすることで価値付けをする。
- ・授業の終末で「もう一度」再確認が大切（動画よりも実際に再確認）

達成感のある授業



数学科 脇川教諭

「1次関数を活用して二人がすれ違う時間の求め方を理解する」

1次関数のグラフを利用して、生口島と因島を結ぶ橋ですれ違う時間の求め方を理解する授業を実践されました。実際に尾道市の身近な橋を題材に、身のまわりの問題を解決する内容で生徒の意欲を高め、生徒の小さなつばやきを大切にしながら授業されていました。



山口指導主事より指導・助言

- ・「一次関数を利用して」といったようにあえてざっくりとした発問を投げかける
- グラフを使うのか、式を立てるのか・・・等 思考していく機会を意図的に設ける

・ 苦手やできていない所を把握（実態把握）→目標を達成できるよう支援するのが教師の役目

できていない要因をしっかりと探る



理科 佐藤教諭

「身のまわりの物質 ～いろいろな気体とその性質の特定～」

身近な物から気体を発生させて捕集し、科学的な根拠をもとにその気体について説明することをねらいとした授業を実践されました。発生させた気体のうち、酸素を選択するために、登山中である場面設定を導入で行い、生徒の学習意欲を高める工夫が見られました。また、身近な物を生徒自身に選択させることで生徒の活動に対する意欲付けも行われていました。



三浦指導主事より指導・助言

- ・ 学習指導要領に沿って、適切に準備されている→評価についても明確である
- ・ 自由度を高めることで生徒の意欲付けになっていた
- ・ 日常生活の中のことをいかす+今までならったことをもとに考える
- ・ ワークシートの意味→穴埋め式ではなく予想（理科での仮説）や思考するためのものにする



今後に向けて～山口指導主事・三浦指導主事の指導・助言から～

- ・ めあてを明確にする
 - ・ 対話型の授業実践（分かる・分からないことを共有しながら）
 - ・ 振り返りで学びの自覚と確認
- 全授業で実践することで「高西授業スタイル」の定着
- ・ 授業の見通しを持たせる（授業の流れを提示）→生徒に任せる（主体性を高める）
 - ・ 教科の枠を超えたテーマを設定する（カリマネの実践）

次回の校内研究授業（能島先生・中畑先生・桑木先生・豊田先生）は9月29日（火）です。今回の学びをつないでいければと思います。よろしくお願いします！